特集

# 地域の中で、子どもの豊かな育ちを支える

「子ども達が将来、「主体的で豊かな人生を歩む力」を持つためには、成功体験と自信を持つことが重要と言われています。」

長野保健医療大学
松下 雅子

## はじめに

私は現在、作業療法士、理学療法士、看護師を養成する大学に勤め、講義を通して大学生に作業療法を伝える仕事を行っています。特に私の専門である、発達障害を抱える子ども（大人も含めて）のアセスメントや支援についての内容が中心になっています。その業務の傍ら、様々な職種の方と連携しながら、地域の中で暮らす子ども達の「発達を支援する」仕事を行っています。

作業療法と言うと、病院の中で、障害を持たれた方にリハビリテーションを行う仕事、といったイメージが主流でしたが、近年、作業療法士が働く領域は広がっています。発達期の子どもを対象とする場合に限っても、病院などの医療領域、保健所や保健センターなどの保健領域、学校などの教育領域、保育園や発達障害児支援センター、放課後デイサービス事業所などの児童福祉領域、と多岐にわたっています。しかし、医療以外の領域で働く、発達期の子どもを対象とする作業療法士は、まだ少ないのが現状です。

これから、私が関わっている障害児通所支援施設（児童福祉領域）における、作業療法士の役割や仕事の内容をご紹介します。

## 放課後等デイサービス[1]の中で行う作業療法

私は10年くらい前から、安曇野市の障害児通所施設の活動に関わってきました。ここは自閉症スペクトラム（ＡＳＤ）や注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）、学習障害（ＬＤ）などの発達障害を持つ、小学生から中学生が通ってくる施設です。私がそこで行っていることは、①支援スタッフの相談を受ける、②様々な情報から多角的・立体的に子どものアセスメントを行う、③必要な支援を検討し、支援スタッフと役割分担しながら実施する、④勉強会を通して発達障害を持つ子ども達の支援について伝える、といった内容です。間接的支援・後方支援的な関わりが多いかもしれません。

1）放課後等デイサービスとは

放課後等デイサービスとは、障害を持った子ども達が授業の終了後又は休日に通ってきて、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を提供するものです。支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことで、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものです。また、保護者が障害のある子どもを育てることを社会的に支援する側面として、子育ての悩み等に対する相談を行うことや、子どもの地域社会への参加を進めることが求められています。一人ひとりの状態に即した個別支援計画に沿って発達支援を行うものとされています。自立支援、創作活動、地域交流、余暇の提供などを複数組み合わせることが、基本活動として推奨されています。

1）放課後等デイサービスガイドライン
厚生労働省ホームページより

安曇野市の山麓にあるログハウス調の建物

## 相談業務とは

子どものことを最も理解しているのは、日頃からその子どもと関わっている保護者ですし、施設の活動に関しては支援スタッフです。保護者の方から相談されることもありますが、支援スタッフからの相談が主になっています。子どもの育ちや発達に直接関係する内容ばかりではなく、関わっている大人（保護者や支援スタッフ）の悩みや課題をどのように解決していくか、といった事柄も多いと思います。例えば、「子どもの行動をどう理解したらよいのか」「子どもの状態を関わっている方々（保護者、学校の先生、医師、習い事の先生など）に、どのように伝えたら良いのか」などです。解決できることばかりではないので、その都度可能な方法を一緒に検討します。

## 作業療法のアセスメント

作業療法では、対象者の作業に焦点を当てた支援を行います。作業とは、対象者にとって目的や価値を持つ生活行為のことを指し、子どもにとっての作業とは、日常生活の様々な行為、遊びや学習、運動、人付き合いです。子どもの様子を観察し、子どもと会話をしながら、子どものニーズがどこにあるのかを探ります。そして、子ども達が困っていること、上手くなりたいと願っていることが、なぜ上手くいっていないのか原因を分析し、どう支援したら成功するのか方策を立てます。

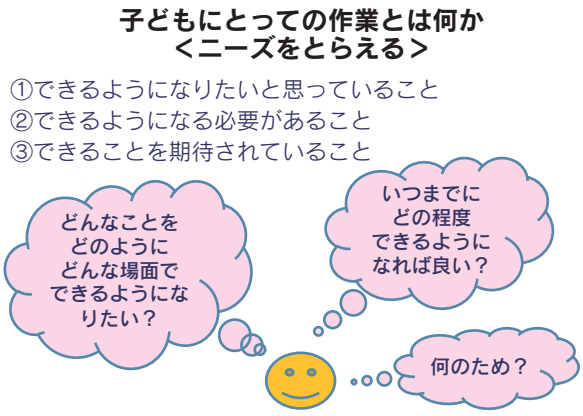



図１：子どもにとっての作業とは

## 実際の支援について

施設では様々なプログラムを実施しています。それぞれのプログラム（○○クラス、と呼んでいます）は、年齢や目的に応じて参加メンバーが決まる、メンバー固定制で行っています。複数のプログラムを組み合わせることで、足りない点を補い合い、子ども

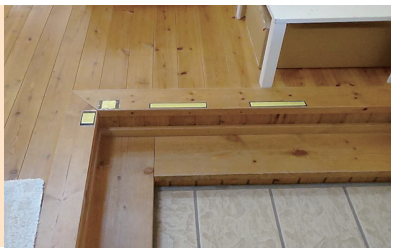
の潜在能力を引き出し、チャレンジする機会が多く持てます。様々な専門性を持ったスタッフが関わることで、支援は多角的・立体的になります。今回は、作業療法士（私を含め3名）が関わっている支援やプログラムの一部を紹介します。

**・構造化**―環境を整える―

漠然とした無秩序な状態は、発達障害を持つ子ども達を不安な気持ちにさせてしまうことも多いため、活動しやすいように環境を整えます。枠組みがはっきりしている分かりやすい環境では、子ども達が自分で判断して、主体的な行動が取れるようになります。いわゆる「自律」です。写真は、見て確認できるようにした視覚支援の例です。簡単に行えるので、家庭生活に応用しやすいと思います。

脱いだ靴の整理を自分で行うためにつけた靴型シート

脱いだ靴はこちら


入口の段差や角は見落としやすいので、注目しやすいようにラインをつけて強調

足元注意

慌てていても落ち着いてノックをする、マナーを日頃から身につける工夫

ノックで確認

使いたい道具の出し入れは自分で行えるようにラベリング

何がどこに

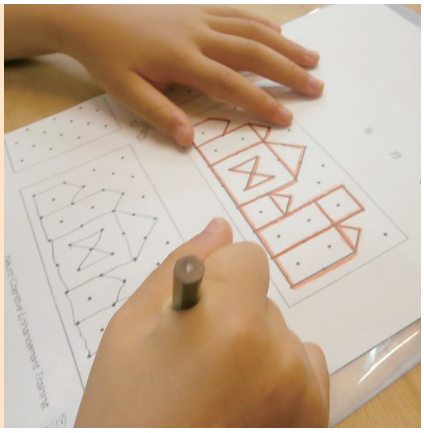
**・コグトレ[2]、ビジョントレーニング**

来たらまず「コグトレ」というプリントを行います。それぞれの年齢や特徴に合わせて、1枚5～10分で終わるA4サイズのプリントを行っています。一人で行えるプリントと、支援スタッフと行うプリント（スタッフが問題文を読み子どもが解答するもの）とがあります。コグトレを通して、主体的に注意を向け集中する練習を行っています。

2)コグトレとは

認知機能は、記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断といったもので全ての行動の基本になります。これらは、五感を通して環境から情報を得て整理し、それを元に計画を立てて実行し、様々な結果を作り出す過程で必要な力と言えます。つまり、学習の土台とも言え、子ども達の育ちには欠かせない力です。コグトレはこの認知機能の強化を目的として開発されたトレーニングで、「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」などの分野に分かれています。

2)宮口幸治：コグトレ　みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング／三輪書店


用紙の上半分にある図を見ながら下に書き写す課題

コグトレできるかな？

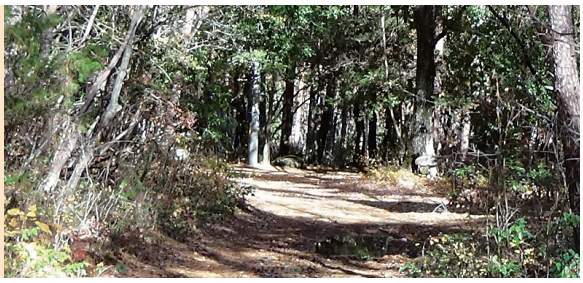
ビジョントレーニングという目でものを見る練習も行っています。見ることの苦手さが、音読での行とばしや書き間違いの多さ、球技の苦手さなど、不注意や学習困難、運動の苦手さにつながることもあります。写真はビジョントレーニングを行っている様子ですが、好きなキャラクターの絵を用いることで、やる気も上がります。

**・基本的な体作り**

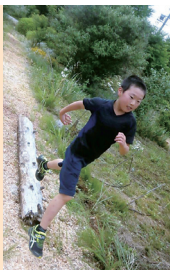
体を使った遊び（運動など）の苦手な子ども達には、楽しみながらしっかり体を動かすことを行っています。思い通りに体を動かせることは、新しい活動へのチャレンジを後押しします。キャッチボールやストレッチ、風船バレー、散歩、畑仕事、時には雑巾がけなども良い運動になっています。施設が安曇野市の山麓にあるため、周囲は自然に囲まれています。地の利を生かしたサーキットトレーニング（複数の運動を組み合わせて繰り返し行うもの）は、子ども達にも人気です。この活動は男性作業療法士が担当し、集団でルールを共有しながら、ゲーム感覚で行えるよう工夫しています。

数字を順番にたどっていくもので、頭を動かさずに目だけで探していく課題です

ビジョントレーニング


施設のすぐそばにある散歩コースは、木立の中を通り抜ける、絶好の森林浴です

この道の先はどこへ？


広いガーデンで子ども達自身もアイデアを出し合い、サーキットのコースを作ります

ガーデンサーキット

時には近所の体育館をお借りして思いっきり運動します

体育館で活動

自分自身の感情に目を向けて、その順位付けを考えました。好きな食べ物の順位、嫌いなことの順位、気持ちの持ち方は人それぞれです。みんな違って、面白い

SST（気持ちの温度計）

**・社会生活技能トレーニング（SST）**

SSTは、日常の経験だけでは対人技能を身につけにくい子ども達に対し、実施しているトレーニングです。人とうまく関わりたい、楽しく一緒に活動したい、といった願いを持っている子ども達に、6名程度のグループで行っています。小学生～中学生のグループでは、困った時は助けを求める（相談）、自分が行ったことや気持ちを言葉にする（報告）、相手の行動に注目して学ぶ（状況判断）、などが身につくように考えています。話し合いやクイズ、ゲーム、プリントワーク、作品作りを通して、自尊感情を高め、子ども達が自信を持って人と関わることができるようにサポートしています。

**・乗馬体験**

年に1度、希望者で乗馬に行っています。動物は、言葉が通じません。だからこそ、お互いに安全に気持ちよくつき合うためには、ルールが大切です。大声を出さない、静かに順番を待つ、走り回らないなど、馬の嫌がることはしないように事前に説明します。初めて出会う馬に驚いている子ども

木曽馬は、体が大きく、優しい瞳をしたパートナーです

木曽馬に乗る

乗せてもらったお礼も兼ねて、しっかりお掃除します

馬のお部屋のお掃除

も、他の子ども達が乗っている姿をモデルにして、安心して取り組めます。また、馬房の掃除も大切な作業です。普段使うことのない道具を用いることも、学習の機会になります。

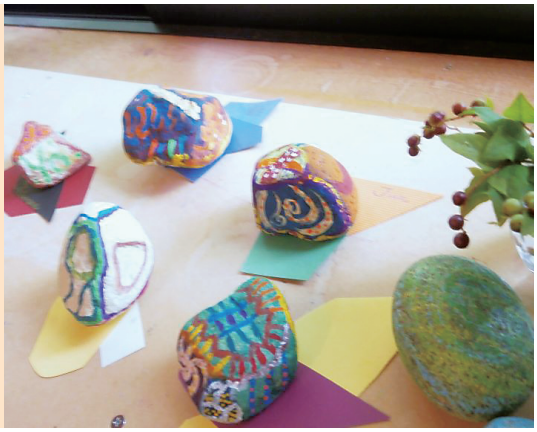
**・こども祭り**

こども祭りは、応援していただいている方や地域の方に、子ども達の成長や活動の様子を発表する、年に1度の機会です。活動発表に加え、出店やもの作り体験コーナーの運営など、来て下さる方に喜んでもらえるような対応をする、といった社会性のスキルが求められます。臨機応変な対応は難しいため、事前に役割を決め、練習を重ね、当日を迎えます。子ども達は、様々なプログラムを通して積み重ねてきた力をここで発揮し、とても頼もしい姿を見せてくれます。

## おわりに

小さな集団で行う活動は、発達障害を持つ子ども達にとって、「人と一緒に何かを行う楽しさ」を体験しやすい良さがあると思います。個々の特徴に配慮ができるため、子ども達にとってもちょうど良い課題（ちょっと頑張れば成功するレベル）を行えます。子ども達が将来、「主体的で豊かな人生を歩む力」を持つためには、成功体験と自信を持つことが重要と言われています。

これからも、子ども達のゆっくり丁寧に学びたい気持ちを大切に、育ちを待ちながら、私ができる作業療法を届けていきたいと思います。


子ども達が作った作品です。川原で拾った石がきれいな作品になりました

石ころアート